

ドラム式高温高圧染色試験機



【特長】

本機は、仮燃の筒編染色試験、丸編、経編、織物の反末染試験機に開発されました。ポリエチレングリコールによって昇温しますのでボイラーが不要です。染色生地は多方向に回転する為、染色ムラはありません。

【構造】

28リッターの密閉した高圧用タンクの中に染料と筒編みを入れ密封蓋をし、熱触媒を入れた本体浴槽にセットします。温度を制御しながらタンクを回転させます。

【仕様】

本 体	(W) 980mm × (D) 600mm × (H) 1140mm SUS-304
水 洗 槽	(W) 500mm × (D) 500mm × (H) 600mm SUS-304
染 色 ド ラ ム	300φ × 400m (内寸) 28 リッター、SUS-316
電 源	200V 3φ 30A
加 熱 ヒ ー タ ー	200V 3φ 8KW
温 度 制 御	プログラムコントローラ 64パターン、18セグメント 温度精度±0.2℃
浴 比	1:10~1:20
専用電動ホイス	200V 300W 最大荷重 100kg
安 全 装 置	過電流防止装置、ヒーター空焚き防止装置、加熱防止装置、 運転中蓋ロック装置 (槽内温度80℃でロック) 蓋開時運転停止装置 (槽内温度80℃以下時)

 常盤商事株式会社

本 社 福井県福井市運動公園4丁目202 TEL: 0776-36-3260 FAX: 0776-36-6136

工 場 福井県福井市下江守30字流し12の1

上海事務所 NO.52 Alley 2977 Hua Xia Rd.pudong Zone Shanghai China TEL:+86-21-68392376

仮撚工場における高圧ドラム染色機導入メリット

2009年4月27日

常盤商事株式会社

藤原 義典

- (1) 筒編を高圧で染める事により、従来の高圧染色と比べてM率が低下する。
即ち、L, M, Dの判定が常圧染色より鮮明に出るため、判別がしやすい。
(2000 鍾にわたり同じ筒編を常圧と高圧で染色し比べた結果、同傾向でL, M, Dが判断され、常圧で判断が難しかったMに近いL, Dが高圧で染める事によりの確に判断できる。(M仮撚工場)
 - (2) 各ニッター工場、染色加工工場が全て高圧で反末染色機、染色加工を行っており、昨今の複雑な糸使いには仮撚工場も高圧で染色試験を行い、同じレベルで生産を考えていくべきだ。(T原糸メーカー、C商社)
 - (3) 従来の常圧染色試験では、耳周期ムラが発生し、L,M,Dの判別に障害があったが、高圧で染色することによりムラが発生しない。
 - (4) 高圧染色する事により、フルダル(FD)ハイカウント糸が鮮明に染色試験できる。
 - (5) 熱源は電気ヒーターの為、ボイラーは必要ありません。
 - (6) 今後、日本の繊維業界は、東南アジア諸国の繊維業界との競争に巻き込まれず独自の道を歩んで行かなければならず、その為にも長年培った仮撚技術を駆使して事にあたる必要があります。
現状中国の脅威が現実化しつつあり、彼らの品質に対する考え方もここ3, 4カ月で著しく変わり、編検、染検も急ピッチで浸透しております。未だその方法は未熟の域を脱せませんが、急速な進歩をすることは間違いないと思います。
そこで付加価値の高い商品を日本独自の技術で生産し続けなければならず、これまで良品(M)率を高めるためには各鍾の調整管理を徹底し、常圧染色機にて繊細染め上げ判断する事が最善と考えられ、高圧染色は一色に染まりL, M, Dの判定には適していないとの考えが多くありました。
- しかし今回、靖江市の高圧ドラム染色機を初輸入し、テストした結果(1)(3)(4)の理由により、考えを新たにしなければならぬと改めて感じました。